

# ～9月の米雇用統計について～

## 結果概要

米国労働省が10月4日に発表した9月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+25.4万人と市場予想(同+15.0万人)を大幅に上回る結果となりました。なお、8月の非農業部門雇用者数は同+15.9万人(速報値:同+14.2万人)、7月は同+14.4万人(速報値:同+8.9万人)に上方修正されました。

業種別では教育・ヘルスケア業は同+8.1万人(前月:同+6.0万人)、娯楽・宿泊業は同+7.8万人(前月:同+5.3万人)と伸びが加速し、小売業は同+1.6万人(前月:同▲0.9万人)と増加に転じるなど、幅広い業種で雇用者数が増加しました。

失業率は4.1%と市場予想(4.2%)を下回り、前月(4.2%)から低下しました。

平均時給は前年同月比+4.0%と市場予想(同+3.8%)を上回り、前月から伸びが加速しました。前月比は+0.4%と市場予想(同+0.3%)を上回りました。なお、8月の前年同月比は+3.9%(速報値+3.8%)、前月比は+0.5%(同+0.4%)に上方修正されました。

労働参加率は62.7%と市場予想(62.7%)に一致し、前月(62.7%)から横ばいとなりました。

## 市場反応(米国市場)

4日の米国株式市場は揃って上昇しました。

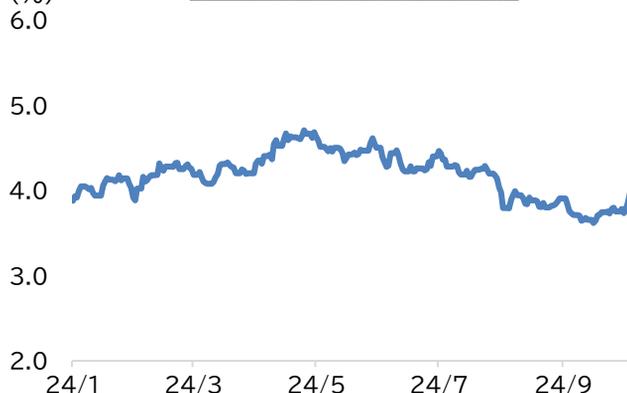
米雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に上回り、米景気のソフトランディング期待が高まったことから、NYダウ平均株価は前日比+0.81%、S&P500指数は同+0.90%、ナスダック総合指数は同+1.22%となりました。

4日の米国債券市場は、米雇用統計の結果から労働市場の底堅さが示されたことを受け、11月のFOMCにおける50bpの利下げ観測が後退したことで売りが優勢となり、10年債利回りは前日比+0.12%の3.97%程度で終わりました。

4日の米ドル/円は、米雇用統計の発表後に米金利が上昇し日米金利差が拡大したことでドル買いが加速し、8月中旬以来の円安水準となる、前日比1円77銭円安ドル高の148円70銭程度で取引を終えました。

4日の原油先物市場は、中東情勢の悪化による供給混乱への懸念から続伸したものの、堅調な米雇用統計によるドルの急伸やイスラエルによるイランの石油施設への報復攻撃の可能性についてバイデン米大統領が否定的な発言を行ったことで上げ幅が縮小し、WTI原油先物11月限は前日比+0.91%の1バレル=74.38ドルとなりました。

(%) **米10年国債利回りの推移**



(期間)2024/1/1~2024/10/4 (出所)Bloomberg

(ドル) **NYダウの推移**



## 評価・今後の見通し

9月の雇用統計は、失業率が前月から低下したことに加え、非農業部門雇用者数、平均時給が前月から上昇したことで、労働市場の底堅さが示され、ソフトランディングへの期待が高まる結果となりました。

市場では、9月の雇用統計の結果を受けて、11月のFOMCにおけるFRBの利下げが確実視される状況は変わらないものの、労働市場の急速な冷え込みやそれに伴う景気後退への懸念が弱まったことから、通常の数倍の下げ幅となる0.5%の大幅利下げが継続する可能性は低下しました。

市場の予想する利下げ時期は、11月のFOMCで政策金利を25bp引下げる確率は95%程度と大半を占めているものの、労働市場の堅調さを示した雇用統計の結果を受け、12月のFOMCでさらなる25bpの引下げをする確率が83%程度、50bpの引下げをする確率は13%程度と、経済指標の発表前までと比べ、年内の利下げ幅は縮小することが織り込まれています。

今後の株式市場の見通しとしては、短期的には10月10日発表の米消費者物価指数、11日発表の米生産者物価指数、17日発表の米小売売上高など引続きインフレや景気動向に関連する指標に注目が集まると考えます。

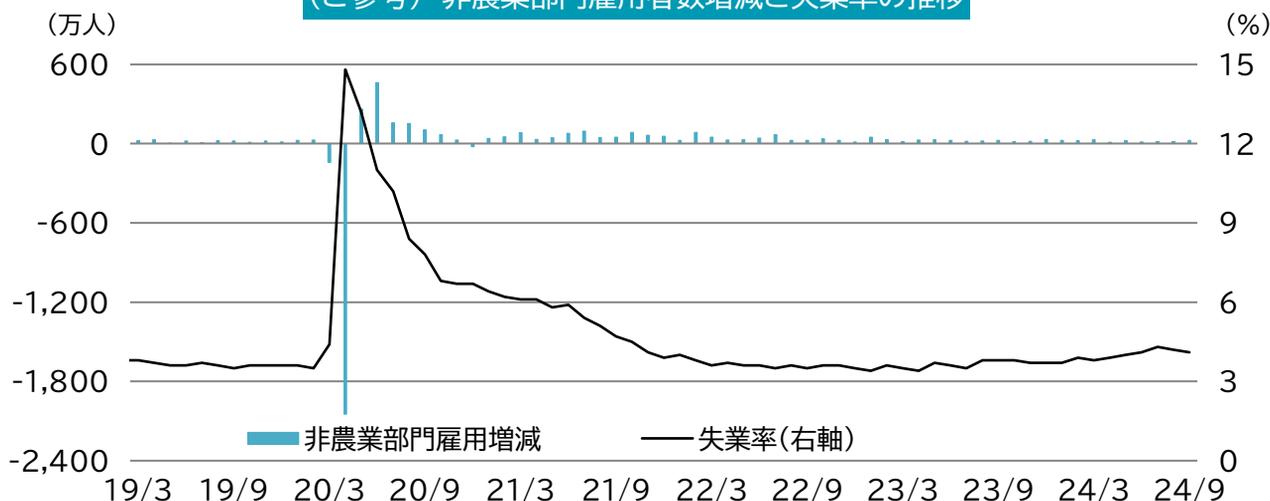
今回の雇用統計の結果を受けて、FRBの金融政策によりインフレの抑制とソフトランディングが両立される可能性が高いという見方は強まったものの、引き続きFRBの金融政策が労働市場を過度に冷え込ませるといった懸念や景気後退への警戒は残っており、短期的には経済指標次第の様相が強まるボラティリティの高い相場が継続するとみられています。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所:米国労働省

	24/4	24/5	24/6	24/7	24/8	24/9
非農業部門	+10.8	+21.6	+11.8	+14.4	+15.9	+25.4
鉱工業部門	-0.3	+1.2	+0.2	+2.1	+0.5	+2.1
建設業	-0.5	+1.3	+1.8	+1.4	+3.1	+2.5
製造業	+0.7	+0.3	-1.6	+0.6	-2.7	-0.7
資源・鉱業	-0.5	-0.4	+0.0	+0.1	+0.1	+0.3
サービス部門	+11.1	+19.4	+9.5	+7.8	+10.9	+20.2
卸売業	+0.7	-0.2	+0.6	+0.5	+0.0	+0.2
小売業	+1.4	+0.8	-2.0	-0.4	-0.9	+1.6
輸送・倉庫業	+2.1	+2.6	+1.1	-0.2	+0.3	-0.9
情報	-0.3	-0.1	+0.0	-1.6	-0.7	+0.4
金融	-0.3	+1.2	+1.3	-0.4	+1.0	+0.5
専門・ビジネスサービス業	-1.7	+5.5	-1.1	-0.4	-0.4	+1.7
人材派遣業	-2.4	+1.4	-3.0	-1.9	-0.7	-1.4
教育・ヘルスケア業	+9.8	+6.9	+8.2	+6.7	+6.0	+8.1
娯楽・宿泊業	-0.9	+1.8	+0.4	+3.8	+5.3	+7.8
その他	2.7	-0.5	3.9	1.6	0.9	2.2
政府部門	+0.0	+1.0	+2.1	+4.5	+4.5	+3.1
失業率(%)	3.9	4.0	4.1	4.3	4.2	4.1
平均時給(前年同月比、%)	3.9	4	3.8	3.6	3.9	4.0

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2019年3月~2024年9月 (出所)Bloomberg